

【声明】

ウクライナ戦争を「命と人権」の視点で、全国で子どもたちと学び合いましょう

ロシアによるウクライナ侵攻は、停戦の見通しが見えず長期化の様相を示しています。街の破壊と民間人の犠牲者が増え続けています。ウクライナ戦争は、20世紀の2度の世界大戦の惨禍を経て生まれた武力行使を禁止する国連憲章と国際法に違反し、世界の平和秩序を破壊するものです。即時に戦争を停止し、平和を実現することを強く求めます。

にもかかわらず、わが国ではこの戦争に乗じて戦後77年間「戦争をさせなかった」「平和国家」を変えようという動きが強まっています。「防衛費」GDP2%への増額、「核共有」「敵基地攻撃能力の保持」などが声高に叫ばれ、9条改憲の動きが加速しています。

この戦争について、子どもたちと考えるときに最も大切なことは、何物にも代えがたい人の命の重さです。戦争の最大の犠牲者は子どもたちです。戦争は、ウクライナの子どもたちから家族・学校・暮らしといったごく当たり前の日常を奪いました。世界各地の子どもたちも、メディアで報道される惨状に心を痛めています。戦争によって食糧価格が高騰し、ウクライナ、ロシアから小麦を輸入していたアフリカ・中東の子どもたちの飢餓は危機的な状況になっています。

歴史教育者協議会はこれまでの長年にわたる実践と研究の中で、戦争と平和についての歴史認識を積み上げてきました。そこから導かれる私たちの視点は、人の命と人権に目を凝らすことでした。それは、地獄のような沖縄戦を経験しその戦後を生きぬいた阿波根昌鴻さんの「命どう宝」の精神に連なるものです。

歴史教育者協議会は、3月10日にロシアのウクライナ侵攻に抗議し、即時撤退を求める声明を出し、全国各地でウクライナ戦争についての学習会等に取り組んでいます。6月11日には、全国民主主義教育研究会、平和・国際教育研究会との共催で合同研究集会を開催しました。この集会では、子どもたちの考える力の確かさを共有するとともに、戦争報道における真実を見出すことが教育の重要な課題でもあることを確認しました。

私たち歴史教育者協議会は、1949年に「内には民主主義を発展させ、外には国際平和に寄与する」ことを願い、「学問的教育的真理」のみに立脚する歴史教育を目的として設立されました。私たちは、子どもたちの平和な日常を一瞬にして奪う戦争に反対し、武力による応酬をやめさせ停戦に向かうことを呼びかけます。子どもたちも「戦争ではなく話し合いによる解決を」と願っています。

戦争の違法化、国際人道法の発展、そして非核地帯条約、核兵器禁止条約の制定、これらの国際法の思想の到達点としての日本国憲法の平和主義など、武力によらない平和に向けた人類の努力を、「命と人権」の視点から子どもたちと学び合いましょう。

2022年7月31日

一般社団法人 歴史教育者協議会 社員総会